

東日本大震災
あの日を未来につなぐ、宮城のいま。

2019.5.11

Vol.

37

May, 2019

ナウイズ
毎月11日発行

NOW IS.



SAMURAI JAPAN PROJECT **Rake**

in 気仙沼 唐桑



「一代さんの「愛」は言葉の壁を越えますね。」

NOW IS. 対談

対談

Talk Session

in 気仙沼 KESENNUMA

現実に向き合い、未来に挑戦し続ける。唐桑の女将が教えてくれたチャレンジの尊さ。

震災の後、ぐっと近づいた海外。

菅野一代さん(以下一代)ーその甲冑すごいね！外国の人、食いつくでしょう。

Rakeさん(以下Rake)ー日本の艶やかさを表現したいと思って。この鎧を着て日本の魅力を紹介する「SAMURAI JAPAN PROJECT」は、海外の反響も大きくて、インスタグラムのフォロワーは開設後10ヶ月で18000人を超えました。

一代ー2013年に始めたこの民宿「唐桑御殿つなかん」にも、最

近外国の方が来てくれるようになったの。でも私、英語しゃべれないから伝えたいことが話せなくて。本当は、唐桑の文化や歴史を紹介したいんだけど…。

Rakeーこんなに雰囲気のある場所にきたら、会話がなくてもいい時間を過ごせそう。窓から海を見てのんびりしたり。障子や棹の細工もいい。日本好きの人にはたまらないんじゃないかな。

一代ーそうでしょう。でもここにも、震災時には10m以上の津波が入ってきて。1階が鉄筋だったから家自体は残ったけ

ど、柱と屋根だけになったのね。でも屋根はあったから、ポランテアで来た子たちが「雨風をしのげればいいから」って寝泊まりし始めたの。そういう姿を見ていたら、どうしてもこの家を再建したくなって。綺麗な細工が施された欄間や襖も、泥の中から拾ってきたの。大工さん泣かせよね。本当は壊して建て直せって言われたんだけど、そこは譲れなくて。

Rakeーそうなんですか。一代ーそういうことを外国から来たお客さんにも説明したいん

だけとね！何にも話せないから、最後は「愛」しかない(笑)。「よく来てくれました！」って、気持ちだけ。

Rakeー伝わります。言葉以外でも一代ー震災の後、海外がぐっと近くなった。以前は、外国の方をまるで宇宙人みたいに見ていた唐桑のじっちゃんばっちゃんも今では「あんだ何しに来たんだ」って方言で話しかけてる(笑)。与えられた運命の中でいかに生きるか。

Rakeー「つなかん」はもともと普

通の家だったわけでしょう。震災前に、自分が民宿をやるって考えたことありましたか。

一代ーまったく思ってたなかった！嫁いであらうと牡蠣剥きばかりやってたから。結婚したばかりのころは、反発ばかりしていたんだけど、ある時義理の父が「与えられた運命を愛せよ」という言葉を教えてくれた。じゃあ私は牡蠣剥きで一番になろうかな、って。やりがいを見つけたからやってきたの。でも津波で全部流されて、財産が長靴とカッパだけになって。ただただ、みじめで

ね。それでもボランティアの子みたいに周りに助けられる人がいたから、少しずつ変わることができたんだと思います。

Rakeー人と接することで生まれるエネルギーってありますよね。一代ーうん、そのエネルギーだけで生きてきた。Rakeー誰かと一緒にいることが自分を奮い立たせてくれることもある。一代さんはきっと、起きた現実に対して、自分で向き合っていて、自分で進む道を見つけたんじゃないかと思う。自分なりの強さを感じました。芯の強さというか。

凛とした気持ちがあるんだな。一代ー心配してくれる人たちが悲しませたくないって思ってた。ここに魂を落ち着けるって決めたから、みんなにいつでも帰ってきてねって言いたいです。

Rakeー「与えられた運命を愛せよ」。いい言葉ですね。僕も、音楽家を休止して、これから変わっていくチャレンジをしていくことになりました。当初思い描いた未来とは違うかもしれない。でもこれから無限の可能性の中から、未来を見つけたら挑戦をしていきたいと感じました。



「つなかん」にいつでも帰ってきてね。



Ichiko Kanno

菅野一代

かんのいちよ

PROFILE

岩手県久慈市出身。22歳の時に気仙沼市唐桑町の牡蠣漁師に嫁ぎ、水産加工業に従事してきた。東日本大震災による津波で自宅が全壊したが、若いボランティアとの出会いが契機となり、自宅を改修し民宿「唐桑御殿つなかん」をスタート。いつもあたたかい笑顔で迎えてくれる名物女将として愛され続けている。

Reiku

Rake

れいく

PROFILE

宮城県仙台市出身のシンガーソングライター。2011年3月にリリースした「100万回の「I love you」」がヒット。2015年にミュージシャンとしての活動を休止し、舞台などエンターテインメントを学ぶ。2019年に「SAMURAI JAPAN PROJECT」の一員として、インスタグラマーデビューした。



活躍する応援職員

SUPPORT POWER



日本有数の水揚げを誇る港町・気仙沼市。ここに、東京都江戸川区から応援職員としてやってきた宮下知也さんは、海なし県山梨県富士吉田市の出身。大学卒業後、江戸川区の福祉部で生活保護ケースワーカーを担当していたという宮下さんは学生時代に山形蔵王に来たことが、東北にはほとんど来たことがなかったそうです。

そんな宮下さんが気仙沼市への赴任を希望したのは、「農業に携わりたいから」。気仙沼市は水産のまちとして知られますが、イチゴやネギ、水稲や大豆などの栽培も盛んで、市内には2000軒もの農家があるのです。「父が定年退職後に農業を始めて、農業って面白いな、と思ったんです。江戸川区には農家さんもいらっしゃるのですが、数も面積も少ないんですよ。」

そんな中、上司から「ここなら農業ができるぞ」と勧められたのが気仙沼でした。「震災のニュースなどをテレビで見っていましたし、何かの役に立ちたいとずっと思っていたので、即決しました。」

こうして2017年に、気仙沼市産業部農林課に配属された宮下さん



イチゴハウスの中で、農家のみなさんと。今やすっかり仲間の一員に。

想いはいつも、気仙沼市とともに

現在は、現在被災地域農業復興総合支援事業を担当。農業用施設や機械の導入を支援し、意欲的な経営体の育成や早期の営農再開をサポートしています。「復興のスピードを加速させ、これからは6次産業化にも力を入れていきたいです。気仙沼のイチゴやネギは本当に美味しいので、それらを使った商品を開発できたらいいですね。」

基本的には1年の任期ですが、宮下さんは延長を重ねて現在3年目。「いずれは江戸川区に戻ることはなるとは思いますが、戻ってから何かしらの形で支援を続けていきたいです。想いはいつも気仙沼に寄せられています。」

気仙沼市 産業部農林課
みやした ともや
宮下 知也 さん
東京都江戸川区より
気仙沼市に派遣

AREA information

復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



みちのく潮風トレイル全線開通記念イベント 気仙沼唐桑半島トレイルウォーク

みちのく潮風トレイルは、青森県八戸市から福島県相馬市までの海岸線を中心に設定された、全長1,000kmを超える「歩くための道」。全線開通を記念して、トレッキングイベントを開催します。自然豊かな唐桑半島の巨釜～御崎間約7kmのリアス海岸のトレイルコースを歩いてみよう!

- 日時:7月14日(日)9:00~13:30(受付開始8:45~)
- 場所:巨釜駐車場
- 料金:2,000円(ガイド料・保険料・昼食代)
- 定員:30名(定員に達し次第終了)
- 交通:東北自動車道一関ICより車で約80分または三陸自動車道気仙沼中央ICより車で約30分
- ☎0226-32-3029(唐桑町観光協会)



唐桑半島のニッコウキスゲ

宮城オルレ気仙沼・唐桑コースにもなっている唐桑半島の「御崎岬」や「巨釜・半造」の海岸では、海の青や森の緑に加え、鮮やかに映える黄色い花・ニッコウキスゲの群生を觀賞しながら散策ができます。地元ガイドによる案内もおすすすめです(予約制)。

- 見頃:5月下旬から6月下旬
- ☎0226-32-3029(唐桑町観光協会)

Visit
唐桑探訪
KARAKUWA

新生Rakeさんと歩く 動き出した唐桑の地。



唐桑町観光協会の千葉光広さんと。千葉さんは生まれも育ちも唐桑。「オルレのコースは千葉さんの庭ですね」とRakeさん。

戻ってきた。思い出の地、気仙沼。「やあ、いい言葉たくさんもらいました!」

対談を終えたRakeさんは、感極まったようにそう言いました。「一代さんの飾らない言葉で、唐桑の現状や一代さん自身の大変な想いをリアルに感じる

ことができました。どんな時代も状況も変わっていく中で、はつきりとした未来が見えなくても、みんなチャレンジし続けているんだな、と。一代さんは、縁があつて、環境があつて、そのなかで頑張つて今がある。僕もそうありたいと思いました。」

Rakeさんは、ミュージシャン時代の2014年、被災地応援

ツアーの初日で気仙沼を訪れています。「あの時、必ずまた戻ってきたと思うので、来られてよかったです。しかもこんなに天気の日!」。雲ひとつない空には、満開の桜が映えるあたたかな日です。一代さんの振る大漁旗に見送られて「唐桑御殿つなかん」をあとにした一行は昨

「気仙沼・唐桑コースは、海辺も歩けば山も歩くルートです。リアス海岸ならではの雄々しい姿を楽しんでほしいと思っています」と話すのは、ガイドの千葉光広さん。「オルレは、地域の人が使っていた古い生活道路や、山や海岸沿いの道をルートに設定しています。アスファルトの道が少なく、唐桑の文化や独自の景観を楽しみながら歩けますよ」。実際に、民家と畑の間にあ



唐桑の海岸は、夏になると奇岩の間を縫うようにニッコウキスゲやハマギクの可憐な花が咲きます。

「震災があつたから、人の出入りが増えたというのがあるのかもしれないですね」とRakeさん。「人が来れば、文化も価値観も混ざり合う。唐桑の魅力や良さを世界に発信するとともに、混ざり合い、つなげる手伝いが自分にもできたらいいと思っています。」

「オープンしたばかりですが、台湾や韓国、中国などの外国の方も多く訪れています。これからもっと増えるのでは」と期待しています」と千葉さんは話してくれました。



「唐桑御殿つなかん」で女将の菅野一代さんと。床の間には、全国からプレゼントされた品々があちこちに。



オルレのコースには、地元の小学生がつくった可愛い看板もあります。

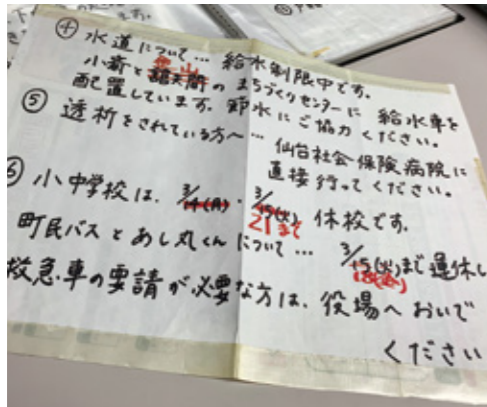
ここに注目!
NOW IS EYE'S



気仙沼・唐桑コースには、東日本大震災の津波で、海底から打ち上げられた巨大な「津波石」があります。大きいもので直径6m、重さ150t! 小さな入り江を巨大な石がふさいでしまっています。

check! 01

震災当時を思い起こさせる
さまざまな「資料」を収集。



震災直後、避難所で張り出されていた掲示物。カレンダーの裏に手書きで書かれています。赤いマーカーで修正した跡は当時の混乱を想起させます。

宮城県図書館では、東日本大震災の記憶を未来に引き継ぐため、「東日本大震災文庫」を2012年に設置しました。収集する対象は、記録集や写真集、報告書や書籍だけでなく、会議の議事録、学校のおたより、手記、避難所などの掲示物、式典のあいさつ文など多岐にわたります。2012年から整備チームが発足し、2019年3月現在、書籍

4798冊、雑誌1451冊、視聴覚資料163点、チラシなどのファイル3586点、東京以西の新聞27紙などの資料を整理・公開しています。なかには「コンセントを抜かないでください」などの掲示物も。一見何気ない資料も、よく見れば、文字の乱れや汚れ、貼られた状況などから、当時の現場の空気を感じることができます。

NOW IS.
防災
BOSAI FRONT LINE

PROFILE

みやぎけんとしょかん
宮城県図書館

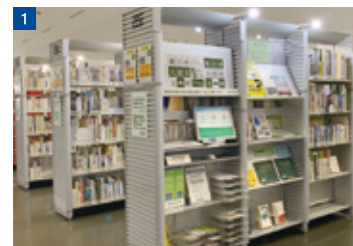


新聞、雑誌、一般図書、外国図書、郷土資料など一般の閲覧のほか、子どもたちが本を読みやすい空間を意識した「子ども図書室」や、常設展「本と人の文化史」が見られる展示室、ホールや研修室、ミニシアターなどもあり、多くの県民や研究者に親しまれる。

住所：宮城県仙台市泉区紫山1-1-1
開館：9～19時（日祝～17時）
休館日：月曜（月曜が祝日の場合は開館し翌平日休館）、館内整理日、特別整理期間、年末年始



復興の記録を防災へ繋げる ///

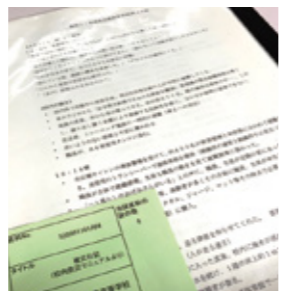


1 宮城県図書館の東日本大震災文庫。3階閲覧室の一角を埋め、書籍や雑誌、会議資料、チラシや写真などを公開しています。2 復旧・復興に関する会議議事録も大切な資料。製本して閲覧できるようになっています。

check! 02

広範囲の大災害。
分類や整理も課題のひとつ。

災害の資料収集は、阪神・淡路大震災後に経験や記録を残す取り組みとして行われ、新潟県中越地震を経て広がっていきました。東日本大震災がこれらの災害と大きく異なるのは、その被害エリアの大きさです。集めなければ、残さなければ、という使命感から職員各々の資料収集から始まった取り組みですが、収集できる資料には限界もありました。「宮城県図書館以外にも、さまざまな図書館などで資料の収集が行われています。収集している資料も異なるので、協力しながら当時



震災発生当日からの宮城県水産高校の日記。生々しい気持ちも記録されている。

起こったこと、復興の経緯を残していきたい」と震災文庫整備チームの太田朋子さんは話します。チラシなどの資料は分類や整理方法も課題になりました。神戸大学附属図書館の震災文庫などを参考に、宮城県図書館では資料を内容で分類し、県内外の地域やタイトルごとにとまとめ、クリアファイルで管理。さらにデジタルの資料は「東日本大震災アーカイブ宮城」で公開しています。寄贈される資料は、年々減少してきます。「復興の過程も後世にとっては大切な情報。引っ越しや移動で資料をどうするか迷ったらぜひご相談ください。」

INFORMATION from MIYAGI

01 未来(あした)への道1,000km縦断リレー2019

今年も7月24日(水)から8月7日(水)までの15日間、青森から東京までランニングと自転車で東日本大震災の被災地を縦断するリレーを開催します。

現在、一緒に走る参加者を募集しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

【参加申込期間】4月24日(水)～5月28日(火)
※参加無料／詳細はHPで▶http://www.1000km.jp



- 7/28 陸前高田～唐桑～気仙沼～南三陸さん商店街
- 7/29 南三陸さん商店街～津山～雄勝～女川～石巻～東松島～松島町文化観光交流館
- 7/30 松島町文化観光交流館～塩竈～七ヶ浜～多賀城～宮城県庁
- 7/31 宮城県庁～名取～岩沼～亘理～山元～相馬

MEDIA INFORMATION



みやぎ復興情報
ポータルサイトは
こちらから!



https://www.fukkomiyaagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで!

今月のブログピックアップ

宮城発!
元気と食の
最新情報



一般社団法人
IkiZen

震災復興に軸足を置き、被災地企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。

語り部が
本当に
語りたこと



東日本大震災の津波で町の約48%が浸水した亘理町。津波被害を後世に伝えるため、2012年8月に設立された町民ボランティア「震災語り部の会ウツタリ」。現在は10人のメンバーで活動を続けています。このブログでは、語り部が本当に語りたことをご紹介します。

「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

●いまを発信!復興みやぎ



SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

●NOW IS.メールマガジン

NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。

NOW IS.メールマガジン で検索して登録!



SAMURAI JAPAN PROJECT

「SAMURAI JAPAN PROJECT」のRakeさん。甲冑に身を包み、宮城や東北、日本の魅力を世界に発信する取り組みを行っています。NOW IS.ではこれから、世界から注目を集めるこのプロジェクトと一緒に、宮城県沿岸部を応援する企画を展開する予定です。まずは今回、宮城発の「侍」が唐桑をどう見つめるのか取材しました。



SAMURAI JAPAN PROJECT Instagramへは
こちらから!



みやぎのタカラ

Treasures of Miyagi

宮城県が得た震災の教訓や復興の道筋は、未来に役立つ宝に育ちつつあります。
この地で生きる人々の想いととも、世界に発信していきます。



FILE
No. 1

唐桑御殿つなかん

女将
かんの いちよ
菅野 一代 さん

唐桑漁師の心意気が
詰まった御殿。

新しい唐桑の発信基地に。

唐桑御殿とは、遠洋マグロ漁の漁師たちが競うように建てた豪華な家のこと。「唐桑御殿つなかん」は、そんな「御殿」を活用した民宿です。以前は牡蠣の養殖を営む菅野家の自宅でした。震災で全壊したものの、多くの支援を受けて再建し、民宿としてスタート。「つなかん」は、ボランティアで唐桑に通っていた若者たちがつけた名前で、地域の名前「鮪立（しびたち）」の「鮪（まぐろ）」を英訳した「Tuna（つな）」と、菅野さんの「かん」を組み合わせたものです。

女将の菅野一代さんは、震災後、海難事故で夫と娘、息子を失います。一時は休業しますが、「つなかんにまた行きたい」「一代さんに会いたい」という多くの声に励まされ、再開。今は、外国人観光客への対応という新たな挑戦をしています。

敷地内には、移動式のかわいいサウナや、見晴らしのいいツリーハウスも。唐桑の海と文化をまとめて楽しめる民宿です。



NOW IS. **37**

発行：2019年5月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493

『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

 宮城県
Miyagi Prefectural Government